



一丸となって応援する様子

4月16日、鴨池補助競技場で行われた。実際に副実行委員長として運営に携わった私にとっても、感謝の連続であった。このころから動き始め

恩恵に感謝するもの
前生徒会長・甲鶴戦副実行委員長 増田 海亜

が、最後に集まったのは平和リス球場。一昨年はプロ野球の関係で全校応援が出来なかつたので、3年生も初めての経験であった。点が入るたびに大歓声と渾身の力を込めた甲南ジャンプ、勝利を願って全校が一丸となって応援していた。終盤鶴丸に攻められ僅差で勝ちを逃してしまつたが、両チームの意地と意地のぶつかり合いは見ているものを熱くさせてくれた。閉会式の成績発表では、各競技で勝利した学校名が発表され、結果は10対7で甲南が勝利を取った。勝利したことの喜びは大きかつたし、生徒会を中心に全校生徒・職員が一生懸命開催に向けて尽力し、無事に終えることが出来たことの充実感や達成感、いつも以上に大きかつた。普通ではない状況での開催のため、戸惑いながらの準備や運営ではあつたが、どんな状況でも前向きに、諦めず、チャレンジしていく姿は本当にたくましく、頼もしさを感じた。来年の甲鶴戦は普通に開催できることを願っている。

員から飛んでくる様々な質問に実行委員長と話し合い、過去の事例をあさり、迷いながらも確実に答える。大変だったのは間違いない。コロナ関連だ。感染症対策とは言ってもどこまでするのか、体育館での声出しは、楽器は、外ではどうするのか、何度も議論を重ねた。そして迎えた本番。イレギュラーなことが多少はあつたものの、役員含め、両校生徒の臨機応変な対応で成功に終えることができた。本当に感謝しかない。驚いたことは、甲鶴戦を終えて、アンケートをとつたところ、多くの生徒が生徒会への感謝を述べてくれたことであつた。迷いながら嬉しがつた。【恩恵に感謝するものは、恩恵からより以上のものを引き出す】古代ローマの詩人の言葉である。何事にも感謝を忘れない甲南生は実力以上の力を引き出し、そしてこれからの甲南の活躍を期待する。



息の合った演舞を披露する応援団

苦難の中の輝きと感謝
応援団長 原田 夏実
みなさん、甲鶴戦本場にお疲れ様でした。選手の方々に、惚れ惚れするほど格好良くキラキラと輝いていました。そして、応援をした皆さん、選手と一緒にする姿から、悔しがりな熱い思いがひしひしと伝わってきました。私達応援団はそんな皆さんと共に応援を通して、甲鶴戦を盛り上げる事ができて本当に幸せでした。2年越しの甲鶴戦、興奮や嬉しさはもちろんありました。が、正直不安も大きかつた。一年生の頃の記憶と先輩方のアドバイスを頼りに演舞や応援を創り上げました。また、コロナ禍での新たな制約の中で、どれだけ甲鶴戦を盛り上げ、1・2年生にこの楽しさを伝えられるかと工夫しました。少しでも甲鶴戦の楽しさ、そして甲南ジャンプの何とも言えない一体感、これぞ甲南！という感じが伝えられたのであれば嬉しいのです。次回1・2年生の番です。どんな制約があろうとも、楽しむことが何より大切だと思います。ぜひ、存分に楽しんで下さい。

1日遠足

～1学年～

1学年は一日遠足として、霧島市溝辺町の上床運動公園を訪れた。まず、中央駅西口のバス駐車場に全員が時間内に集合し、無事出発できた。現地到着時は雨が降っており、体育館内でクラス毎にレクリエーションを楽しんだ。そのうち雨も上がり、グラウンドを走り回ったり、高台から飛行機の離着陸を眺めたりし、昼食後は、ドッジボールのクラスマッチを行った。男子は利き腕の逆で投げると悪戦苦闘しながら、女子は友達と一緒に逃げながら、クラス全員参加して笑顔溢れる時間を過ごすことができた。コロナ禍においてクラスの親睦を深められた貴重な一日となった。

～2学年～

昨年はコロナウィルスの影響で遠足が中止となったため、今年が高校に入学して初めての遠足となった。朝から小雨が降り天気心配されたが、予定通りに出発できて、動物園に到着する頃には雨もやみ、青空がみえてきた。生徒たちは新しい生活様式に則って、限られた時間の中で新旧学級での親睦を深めることができた。3月下旬に「新コアラ館」がリニューアルするなど近くにある平川動物公園ではあるが、久しぶりに行くとても新鮮で楽しい時間を過ごせたのではないと思う。



笑顔はじける2年生

～3学年～

3学年の一日遠足は、仙巖園和尚古集成館を見学した後、蒲生体育館に移動しドッジボールを行った。朝から小雨がまじり、天候が心配されたが、中央駅西口のバス乗り場にそれぞれ集合し、全員が検温を行い無事に出発することができた。天気もなんとか持ちこたえ、仙巖園では思い思いに庭園を散策したり、ジャンボ餅に列を作ったりして楽しみ、尚古集成館では、静かに資料に見入る姿が見られた。身近にある史跡ではあるが、生徒達もあまり訪問したことはないとのことで貴重な時間となった。蒲生体育館ではフロアに入れるのは200人までという決まりを守り、感染予防に努めながら、クラス一丸となってドッジボールを楽しんだ。充実した一日遠足となった。

卒業生の大学合格状況について

7年連続で現役合格者200人超。72期生は73%。がんばる甲南生！

今回から始まった大学入学共通テストは1月15・16日の2日間で、志願者数は535,245人。前年から22,454人減少した（特に既卒生が19,369人減少、現役生も減少している）。現役生中心の受験であることは変わらず、志願者数に占める現役生比率は84.0%であった。

そのような状況下、甲南生はよく頑張った。国公立大学合格者は255人（うち現役合格者は226人）であり、7年連続で国公立大学の現役合格者数が200人を超えた。72期生の国公立大学の現役合格率は72.9%（71期生65.6%）であり、7割を超える合格となった。難関大においては、東京大学2人（現役1人）、京都大学1人（現役1人）、大阪大学4人（現役3人）、九州大学18人（現役17人）、国立大医学部医学科2人（現役1人）と健闘した。私立大学も慶應義塾、早稲田、同志社、立命館、福岡、西南学院等の合格を勝ち取っている。



出陣式の様子(令和3年1月)

なお、九州大学や広島大学、鹿児島大学医学部医学科等の学校推薦型選抜・総合型選抜（旧AO入試）でも合格者が出ており、本校生の普段からの取組が評価されたと言える。ただし、学校推薦型選抜・総合型選抜の多くが、大学入学共通テストでの7、8割程度の得点が条件に課されており、普段の授業への取組が大事だと言える。

さて令和3年度入試は、新型コロナウイルス感染症が拡大したことから、入試も途中変更となる大学が多く見られた。今後、各大学から入試要項が発表されるので、内容をよく確認してほしい。ただ、現在も感染の収束に目途が立たないことなどを考えると、令和4年度の入試も発表後の変更が予想される。志望する大学のホームページには適宜アクセスし、変更等がないかを確認することを心がけてほしい。

令和3年度入試 大学入試合格状況（令和3年6月1日現在）

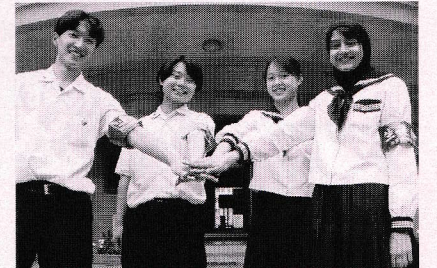
国立大学	新卒	既卒	計	公立大学	新卒	既卒	計
筑波大学	2		2	東京都立大学	2		2
千葉大学	1		1	神戸市外国語大学	2		2
お茶の水女子大学	1	1	2	北九州市立大学	5		5
東京大学	1	1	2	熊本県立大学	3	1	4
東京学芸大学	1		1	その他	17	3	20
東京工業大学		1	1	小計	29	4	33
名古屋大学	1		1	私立大学	新卒	既卒	合計
京都大学	1		1	慶應義塾大学	1		1
大阪大学	3	1	4	早稲田大学	2		2
神戸大学	3		3	明治大学	3	1	4
広島大学	13	2	15	法政大学	4	1	5
九州大学	17	1	18	同志社大学	3	3	6
九州工業大学	7		7	立命館大学	11	5	16
長崎大学	8	2	10	西南学院大学	31	6	37
熊本大学	17	2	19	福岡大学	42	11	53
鹿児島大学	99	9	108	その他	133	44	177
その他	22	5	27	小計	230	71	301
小計	197	25	222				

「Starry」
生徒会活動を振り返って
前副会長 大山 永遠
私達、生徒会執行部のこれまでの活動を今改めて振り返ってみると、その全てが濃く、一言で言い表すことができません。
2年前、初めての本格的な行事である前期クラスマッチ運営した時に感じたその仕事の壮絶さを、今もはっきり覚えています。定期テストが近づいているにもかかわらず、放課後生徒会室に集まり、やらなければいけないことを全員で分担して、必死に取り組みました。とても大変でしたが、当日に自分たちが作り上げてきたことを体感して、きつかったことをすべて忘れるほどの達成感を感じました。新型コロナウイルスの流行もあり、それからの仕事も簡単なものでは1つも無かつたですが、ユモアのある会長を中心に、役員全員で知恵を出し合い、常により良いものを作ろうと励みました。文化祭の挨拶で劇のアフレコを真似たのも、会長の提案のも話し合って実行したものでも、そんな甲南での生徒会活動を通して、学んだことがあります。それは、仕事をやる上で大切なことは仲間との人間関係だということです。仲良く、協力し合って取り組めば、どれだけ大変な仕事も必ず乗り越えられます。そして全生徒からの協力も同じです。どうか新体制の生徒会執行部にもご協力をお願いします。

生徒会執行部	
令和3年度生徒会執行委員会役員	
会長	安和留ヅヤ（2-2）
副会長	大迫 れん（2-6）
総務局長	樫元 壮（2-3）
副局長	小窪あかり（2-2）
局員	進藤 心美（1-3）
局員	隈崎 健翔（1-8）
体育局長	川上 真輝（2-5）
副局長	平山 愛海（2-1）
局員	有馬 聖人（1-7）
局員	福島和花子（1-8）
文化局長	川崎ほのか（2-6）
副局長	小窪あかり（2-2）
局員	宮山 孔明（1-4）
局員	梶原 理緒（1-8）
会計局長	長島 里朋（2-3）
副局長	新地 夏樹（2-5）
局員	吉村 歩乃佳（1-3）
局員	尾山 心優（1-2）
広報局長	新地 夏樹（2-5）
副局長	赤崎 心花（1-8）

生徒会長 安和留ヅヤ
私たち生徒会執行部は、学校行事や生徒会行事の運営を中心に、生徒の皆さんがよりよい学校生活を送ることができるよう日々活動しています。現在生徒会執行部は、1年生9人、2年生9人、計18人の愉快な仲間です。毎日楽しく活動しています。
今年の生徒会のスローガンは、「twinkle、です。twinkle」という言葉には生き生きとした目の輝き、喜びなどで輝く、

Twinkles



前会長から新会長へバトンタッチ

きらめきという意味がありませ、生徒の皆さんの目を輝かせ、ワクワクしていただくような行事を作り上げていくという想いを込めて、この言葉を選びました。
話は大きく変わりますが、皆さんは好きなものや心から熱中できるものはありますか。私は、会長選挙の演説の時にも言ったのですが、小さい頃から空と飛行機が好きです。なぜ空と飛行機が好きかというと、どんなに天気が悪い日でも飛行機に乗って雲の上に行けば、暖かい太陽が照らしてくれるからです。私は生徒の皆さんに親近感を持ってもらえるように温かく、そして沢山の方に元気を与えられるようなアクティブな生徒会長になりたいです。そのために生徒会と生徒の皆さんの間に壁をなくすことができるよう精一杯努力をするつもりです。これから私が皆さんの前で挨拶をする機会も多くなります。皆さんに興味を持ってもらえようという話ができるよう頑張りますので、耳を傾けて貰えたら嬉しいです。一年間、どうぞよろしくお祈りします。